

(1) これまでの総括と本審査の振り返りについて

資料 1

①データから見た総括

ア 各対策委員会の取組に関連するデータの推移

平成25年に最初の国際認証を取得して以来、重点6分野10項目において具体的施策の実践を進めており、概ね着実に成果が出ている。

対策委員会	重点取組項目	指標	H25年度 (初回認証)	H30年度 (再認証)	R5年度 (3回目認証)
交通安全	高齢者の交通事故防止	交通事故発生件数 (人口10万人あたり)	3,139件 (1,026件)	2,125件 (703件)	1,322件 (438件)
	自転車事故の防止	R5年		37.8%減	57.9%減
児童虐待防止	児童虐待の防止	児童相談件数	997件	1,786件	4,947件
		R4年度		2.8倍	4.96倍
学校安全	学校の安全	児童虐待対応件数	170件	261件	495件
		R4年度		1.9倍	2.91倍
高齢者の安全	学校の安全	ケガ発生件数(全小学校)	1,489件	1,583件	1,256件
		R4年度		20.7%減	18.5%減
高齢者の安全	転倒予防	転倒を予防するための対策を行う人の割合	62.9%	64.7 (R1年度)	64.5%
	高齢者の虐待防止	高齢者虐待の通報件数	88件	100件	89件
防犯	犯罪の防止・防犯力の向上	R4年度		高齢者人口は増加 通報件数は横ばい	
		R5年		4.7%増	52.2%減
DV防止	DV防止・早期発見	一般刑法犯認知件数 (人口10万人あたり)	3,774件 (1,234件)	1,881件 (615件)	1,971件 (653件)
		R4年度		1.6倍	1.72倍
自殺予防	自殺・うつ病の予防	他の機関から相談に繋がった件数	12件 (H27年度)	20件	23件
		R4年		R2・3年は自殺者数が増加 R2:65人	
防災	地域防災力の向上	自殺者数	57人	50人	48人
		R4年度		2.5倍	10.5倍
防災	地域防災力の向上	校区防災士養成人数	15人 (H28年度)	のべ64人	のべ157人
		R4年度		2.5倍	10.5倍

イ 重点分野に関連するデータの推移

各重点分野に関するデータの推移を見ると、各対策委員会の取組等により成果は出ているものの、市の安全安心に対するリスク要因として、初期に設定した地域課題としては引き続き存在しており、今後も6つの重点分野に取り組む。

交通安全に関するデータ



➤ 交通事故は減少しているが、全国に比べると交通事故の発生が多い。

交通安全に関するデータ

年齢層ごとの救急搬送原因

出典：救急搬送データ 2017年(H25年)～2021年(R3年)累計



➤ 7～17歳と18～64歳では、「交通事故」の占める割合が約50%

犯罪・暴力の予防に関するデータ

ふだんの生活で不安に感じること

出典：市民意識調査 2021年(R3年)



➢ 犯罪に対する市民の不安感は、災害、交通事故の次に高いが、空き巣などに対する不安感は低下

➢ 新たな犯罪である電話を使った詐欺への不安感が発生

福岡県のニセ電話詐欺被害額

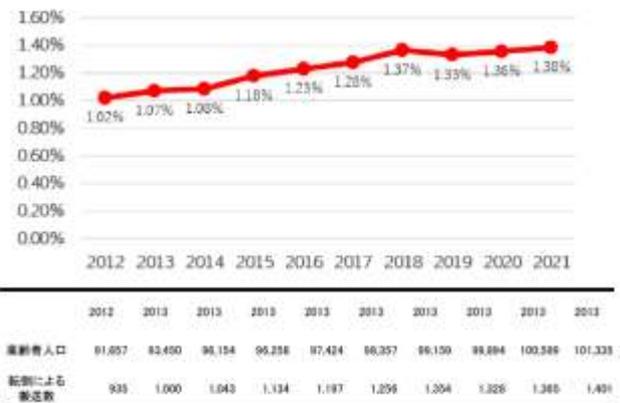
2021年：7億6,460万円（前年比97%増）

高齢者の安全に関するデータ

65歳以上の高齢者の救急搬送原因

出典：救急搬送データ

高齢者人口に対する転倒による救急搬送の割合



➢ 高齢者の救急搬送は増加傾向
➢ 転倒による救急搬送が増加

➢ 高齢者人口に対する転倒による救急搬送の割合が増加

犯罪・暴力の予防に関するデータ

一般刑法犯の認知件数

出典：警察統計



➢ 一般刑法犯の認知件数は減少

➢ 近年、人口10万人あたりの件数は、全国を下回る

子どもの安全に関するデータ

小学校でのケガの発生状況

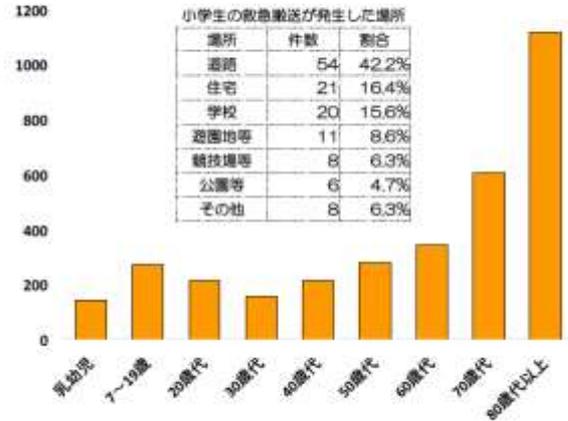
出典：日本スポーツ振興センター災害給付データ



- 学校でのケガは減少
- 学校でのケガは、全国より多い

年代別救急搬送件数（病気を除く）

出典：救急搬送データ 2021年(R3年)



小学生の救急搬送が発生した場所

場所	件数	割合
道路	54	42.2%
住宅	21	16.4%
学校	20	15.6%
遊園地等	11	8.6%
競技場等	8	6.3%
公園等	6	4.7%
その他	8	6.3%

- 年代別に見ると、子どもの救急搬送は多い
- 小学生の救急搬送発生場所の上位は道路、住宅、学校

自殺予防に関するデータ

自殺者数

出典：人口動態統計



- 自殺者数は減少傾向にあったが、2020年は増加

病気を含む年齢層別の死亡原因

出典：人口動態統計 2015年(H27年)～2019年(R1年)累計

年齢層	1位	2位	3位
0～9歳	染色体異常 14	感染症 3	両性期の異常 3
10～19歳	自殺 12	不慮の事故 4	新生物(腫瘍) 4
20～29歳	自殺 27	不慮の事故 7	新生物(腫瘍) 7
30～39歳	新生物(腫瘍) 27	自殺 23	不慮の事故 6
40～49歳	新生物(腫瘍) 124	自殺 41	脳血管疾患 28
50～59歳	新生物(腫瘍) 255	自殺 49	脳血管疾患 45
60～69歳	新生物(腫瘍) 846	心疾患 119	脳血管疾患 96
70～79歳	新生物(腫瘍) 1,320	心疾患 234	脳血管疾患 193
80～89歳	新生物(腫瘍) 1,652	心疾患 678	肺炎 489
90歳～	心疾患 670	老衰 654	新生物(腫瘍) 602

- 10歳代、20歳代では、自殺が死亡原因の第1位、30歳代、40歳代、50歳代では第2位

防災に関するデータ

近年の大雨と浸水被害の状況

出典：久留米市都市建設部調べ

	1時間 最大雨量 (mm)	3時間 最大雨量 (mm)	24時間 最大雨量 (mm)	48時間 最大雨量 (mm)	72時間 最大雨量 (mm)	総雨量 (mm)	浸水件数
2018年 7月	40.5		279.5 観測史上1位	383.5 観測史上1位		386.0 (7/5～8)	床上：423件 床下：1,011件
2019年 7月	90.0 観測史上1位	177.5 観測史上1位	335.5 観測史上1位	402.5 観測史上1位		474.5 (7/18～23)	床上：196件 床下：120件
2019年 7月	60.5	147.0	33.0	408.0		408.0 (8/26～29)	床上：27件 床下：24件
2020年 6月	92.5 観測史上1位		193.5	194.0		194.0 (8/26～29)	
2020年 7月	48.0	195.5	360.5 観測史上1位	483.0 観測史上1位	529.0	735.0 (7/5～10)	床上：325件 床下：1,620件
2021年 8月	72.0		367.0 観測史上1位	572.5 観測史上1位	718.5 観測史上1位	896.5 (8/11～10)	床上：518件 床下：2,194件

- 2018年から2021年まで、4年連続で、住宅の浸水被害が発生！

防災に関するデータ

けがや事故、犯罪、災害に対する不安感

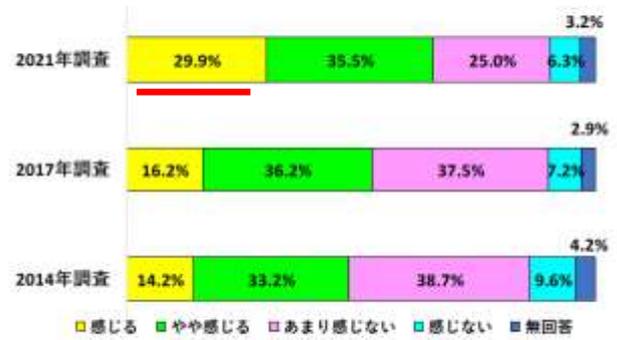
出典：久留米市民意識調査 2021年（R3）



➤ けがや事故、犯罪に比べ、災害の不安感が高い

災害に対する不安感の経年変化

出典：久留米市民意識調査



➤ 災害に対する不安感が増大

② 本審査の振り返りについて

ア 現地審査の概要

日 程	令和5年7月31日(月)、8月1日(火)
場 所	久留米シティプラザ 大会議室
開催方法	ハイブリッド形式
審査員等	審査員(対面1名、オンライン2名)、オブザーバー(対面1名)

7月31日(月)

- ◆全体概要説明 9:15～10:00
- ◆外傷等動向調査委員会 10:15～11:15
- ◆児童虐待防止対策委員会 11:30～12:30
- ◆市内視察 13:30～15:30
- ◆学校安全対策委員会 16:15～17:15
- ◆高齢者の安全対策委員会 17:30～18:30 ※



8月1日(火)

- ◆交通安全対策委員会 9:15～10:15
- ◆防犯対策委員会 10:30～11:30
- ◆DV防止対策委員会 11:45～12:45
- ◆自殺予防対策委員会 14:00～15:00
- ◆審査員ミーティング 15:10～15:50 ※
- ◆講評 16:00～17:00 ※



※オンラインの審査員2名が参加されたセッション

- ・災害発生のため、防災対策委員会のプレゼンテーションは中止。書面での審査のみ。
- ・審査員、審査方法が最終的に確定したのは、1ヵ月前の7月上旬。
- ・現地審査後、申請書について審査員から書面で質疑があり、回答。
- ・市内視察は、久留米市の状況、雰囲気把握してもらうことを目的に下記の通り実施。
 - ①青パト活動団体との意見交換
 - ②移動中の車中で窓から見える街の様子を説明
 - ③ボランティアセンターや土砂災害現場を車内から案内

審査員・コーディネータープロフィール

審査員

◆ジョンイ・ペ (Jeongyee BAE) ◆

○博士 (看護学)

○インジェ大学看護教授 (2021 年より学部長)



◆レザ・モハマディ (Reza MOHAMMADI) ◆

○国際セーフコミュニティ認証センター センター長

○カロリンスカ研究所 (医科大学) 研究員



◆グールドブランド・シェーンボリ (Guldbrand SKJÖNBERG) ◆

○国際セーフコミュニティ認証センター理事・ジェネラルマネジャー



オブザーバー

◆マイケル・ウィルソン (Michael WILSON) ◆

○トゥルク大学医学部 (傷害疫学) 准教授 (フィンランド)



コーディネーター

◆白石 陽子 ◆

○博士 (政策科学)

○(一社)日本セーフコミュニティ推進機構 (JISC) 代表理事



イ 審査員講評での主な意見、指摘等

◎ 包括的に久留米市の取り組みを理解するために、行政がどのような役割を担っているのか意見交換する時間が欲しかった。

・プレゼンテーションは 30 分程度の発表、30 分程度の質疑を想定していたが、オンラインの先生 2 名はじっくりと意見交換を行いたいとの意向だった。

・2 人が参加された高齢者の安全対策委員会は終了予定時刻を 50 分超過、審査員講評の際は直前の審査員ミーティングの時間を利用し急遽意見交換の場を設けた。

◎ 全国や福岡県と比較することで取り組みの数値的な成果を分かり易く示すことができていた。

・人口 10 万人当たりの数値を比較することで、地域の実情が分からない海外の審査員に伝わり易い内容となっていたとの評価を頂いた。

◎ 申請書を作成する際には「どのような情報をいれれば久留米市や日本のことを知らない海外の自治体の方が理解できるのか」という視点を持ってほしい。

・5 年前からの変化が明確に示されており非常に分かり易い申請書との評価を頂いたが、「ここにコスト運動」等の固有の取り組みや、交通安全に関わる関係法令の改正等の各分野における日本社会の傾向が伝わりにくい様子だった。

ウ 外傷等動向調査委員会のプレゼンテーション／審査員、オブザーバーの意見等

外傷等動向調査委員会

■男性の自殺者数の増加について

動機を調査することによって、性別だけでなく世代ごとに具体的な予防の取り組みが見えてくると思う。

■DVや虐待について

既に取り組んでいると思うが、表にでてこないケースをいかに把握するかチャレンジし、SC推進自治体の中で共有してもらいたい。

■防犯の取組みについて

暴力を伴う犯罪と特殊詐欺への対策はそれぞれ違うと思うので、分けて分析することで新たな傾向が見えると思う。

■高齢者の転倒予防について

韓国の場合、早朝の転倒が多かった。精神的な状態が影響していると考えられるので、服薬や起床時の行動に注意を促す取り組みを行った。久留米市でも参考にしてみてはどうか。

エ 各対策委員会のプレゼンテーション／審査員、オブザーバーの意見等

交通安全対策委員会

■高齢者の交通事故について

現在の取り組みに参加している方ではなく、参加していない高齢者にどうやったらアプローチできるのか工夫してみることが今後の取り組みのポイント。

■取り組み全体

警察の交通事故データだけでなく、他の交通安全に関する様々なデータを探し、活用することでより効果が出る取り組みに繋がる。

児童虐待防止対策委員会

■次のステップに向けて

- ・既に活動に関わっている方達に対する支援の一つとして、児童虐待が疑われるときに判断する基準や、過去の事例などを情報提供してはどうか。
- ・健康診断の時に虐待されていないか確認するといったように、医療機関との連携を考えてみてはどうか。
- ・加害者と被害者両方へのアプローチの一つとして、実父からの虐待が増えているとのことだったので父親の置かれている状況について情報を集め分析してはどうか。

■取り組みの方向性

- ・コロナ禍によってより顕在化された社会全体の課題である、分断された社会や地域、家族、世代間などの繋がりを、もう一度繋げよう、繋がりを増やしていこうとする考え取り組みの根底にある。皆さんの取り組みの方向性は正しいと思うので、是非継続して欲しい。

学校安全対策委員会

■次のステップに向けて

- ・いじめは心理的なアプローチが重要なので、学校安全対策委員会にメンタルヘルスの専門家を加えると良いのではないか
- ・不登校については、学校の先生に対する研修と同じように、保護者にも啓発を行うことが重要である。保護者がある程度の知識をもって、子どもに接することが重要である。

■取り組み全体

- ・久留米市の学校安全の取組は一定の成果がみられるので、他の自治体等で共有していくといいのではないかと。

高齢者の安全対策委員会

■転倒予防の取り組み

- ・にこにこステップ運動に関連して、参加者の健康状態や既往歴などの情報があれば、別のものが見えてくるのではないかと。

■溺死溺水

- ・入浴に関して、フィンランドではサウナがよく利用されるが、アルコールを摂取した上の利用があり、健康問題になっています。日本も同様のことが考えられるので、フィンランドの事例を参考にされるとよいのではないかと。

防犯対策委員会

■次のステップに向けて

- ・犯罪そのものに対し対策を行い既に多くの成果を上げているので、一步先のチャレンジとして犯罪を引き起こす要因、背景について調査、分析を行ってみることで、取り組みを行う新たなパートナー等が見えてくるのではないかと。例えば過剰な飲酒やストレスなど、韓国ではメンタルヘルスセンターと一緒に分析を行っている。

■サイバー犯罪について

- ・AIを使用した犯罪等など、今後サイバー犯罪はますます複雑化していくと考えられるので、最新の調査・研究の動向や専門家の意見の情報収集がこれから先必要になってくるのではないかと。

DV防止対策委員会

■今後について

- ・自分がDV被害者であると気付くためには、繰り返し、子どもから高齢者まで、様々な年代に教育を提供することが大切である。

■アプローチの方法について

- ・（意見は分かれると思うが）DVを家族の問題ととらえて、家庭内の暴力の循環のどこかを断ち切ることで暴力が止むような、家族対象の予防プログラムを作るのも良いかもしれない。

自殺予防対策委員会

■取り組み全体

- ・年齢や特徴に応じた対象・取り組みを適切に設定できており、だからこそ成果があげられていると感じた

■（情報提供）

- ・韓国でも中高年の自殺が問題であり、企業と協定を結び勤務中にカウンセリングを受けやすくするなど、職場でのストレスの軽減取り組んでいる。
- ・昨年実施した韓国での全国的な調査結果で、初めて自殺企図をした方は6ヵ月以内に再企図を試みる傾向があった。初めて自殺企図してからの6ヵ月は集中的に介入する必要があることが分かった。